

1. 管内肉用牛繁殖農場への肝蛭感染源としての稲 WCS 給与状況調査

豊後大野家畜保健衛生所

○井上峻一・児玉千尋・長島尚史・(病鑑) 佐藤亘

【はじめに】

管内肉用牛繁殖 A 農場において軟便と消瘦を呈する個体が多発し、発酵が不十分な稲 WCS 給与の関与が疑われる肝蛭症と診断。そこで、稲 WCS の利用状況を把握し発生防止に資するため、管内の肉用牛繁殖農場を対象にアンケート調査を実施したので、その概要を報告する。

【A 農場における病性鑑定及び聞取調査】

- 1 病性鑑定：A 農場は母牛 50 頭規模の肉用牛繁殖農場で、昼間は放牧し、夜間は畜舎にて管理。2025 年 2 月より成牛数頭が軟便と消瘦を呈するようになったため病性鑑定を実施。症状を呈する 9 頭の糞便について、ビーズ法により検査したところ全頭から肝蛭虫卵を検出し、肝蛭症と診断。細菌検査での有意菌分離はなし。
- 2 聞取調査：粗飼料は、原則、自家産の稲 WCS と乾草を給与。牛群ごとの給与飼料を調査したところ、肝蛭症の発生した牛群では収穫後約 1 ヶ月未満の稲 WCS を購入して給与していたことが判明。発酵不十分な稲 WCS の給与が、肝蛭症発生に関与していると推測。

【粗飼料給与状況に関するアンケート調査】

- 1 調査方法：管内の肉用牛繁殖農場 34 戸を対象に調査を実施。調査項目は、①農場所在地、②飼養頭数、③下痢・消瘦等の症状の有無、④給与粗飼料の種類（稲 WCS を給与している場合は発酵期間や梱包時の水分調整の有無など）、⑤保管状況及び鳥獣害対策実施の有無、⑥在庫状況等について聞き取り。
- 2 調査結果：①対象農場は、B 市：11 戸、T 市：22 戸、S 市：1 戸、②飼養頭数規模は、10 頭未満：12 戸、10～60 頭：20 戸、60 頭以上：2 戸であり、管内全域・全規模を対象とした。③下痢・消瘦等が頻繁にみられる農場は 4 戸であった。④給与粗飼料は、稲 WCS を給与する農場は 23 戸であり、このうち 5 戸は梱包時の水分調整が不十分であり、11 戸は給与までの発酵期間が 2 ヶ月未満であった。⑤全農場が飼料を屋外に保管しており、6 戸は鳥獣害対策を実施していなかった。⑥在庫状況については、余裕がないと回答した農場は 8 戸であった。

【まとめ】

稲 WCS は、適切に処理・保管されていれば 2 ヶ月程度で肝蛭の感染力はなくなるが、発酵が不十分な稲 WCS を給与した場合は肝蛭症の発生が懸念される。今回、稲 WCS の品質に影響を及ぼす各条件について調査したところ、改善を要する農場が認められた。本結果を元に、管内肉用牛繁殖農場に対しリーフレットを配布する等、肝蛭症の発生防止の注意喚起を実施した。肝蛭症は駆虫薬が販売中止となっており、感染防止が特に重要であることから、稲 WCS を給与する農場を主体として重点的に指導を継続していきたい。